

幼稚園における子育て支援を考える

丹羽 さがの* 無藤 隆**

本研究では、幼稚園に子どもを通わせている保護者の子育て支援ニーズを探り、地域における子育て支援において幼稚園が果たすべき役割を見出すことを目的に調査を行った。幼稚園在園児保護者3119名、幼稚園の地域開放に参加している未就園児保護者564名へのアンケート調査の結果を、子育ての実情、子育て仲間、母親の生き方と子育ての3つの視点からまとめ、考察した。子育ての実情については、子育てに伴う悩みは子どもの年齢により異なり、子どもの発達的变化が問題視されることもある。一番身近な相談相手は配偶者であり、幼稚園、医師等の専門施設、機関は相談にはあまり利用されていない。子育て仲間については、子育て仲間は保護者の重要な精神的支えとなっているが、こうした子育て仲間を持っていない保護者、欲しいのだが作れない保護者がいる。また、子育て仲間との付き合い方に悩む保護者もいる。母親の生き方と子育てについては、家事専門の母親は子育てに対する満足感が高いが、自分の生き方に対する満足感は低い。母親たちの半数以上が将来への不安を感じている、といった結果が示された。こうした結果から、幼稚園が果たすべき役割として、①子育て相談（専門的知識の提供・情報発信）②仲間作りの場、保護者の対人的問題について心理的サポートの提供③母親の自らの生き方への満足度を高めるといった形での間接的な子育て支援、が求められていることが示唆された。

問題と目的

近年、核家族化や少子化、男女共同参画社会の進行による働く女性の増加等を背景として、子育てを巡る状況は、大きく変化しつつある。両親との同居世帯が減少し、近隣との結びつきも希薄化した結果、夫婦2人で子育てを行う家庭が増加した。そうした家庭においては、家事専門の母親は、夫が仕事で外に出ている間、誰にも頼れず、一人で子どもの世話を背負う可能性が高い。

これまで、就業している母親と家事専門の母親では、後者で育児不安が高くなる傾向にあることが示されてきた(牧野、1983；八重樫と小河、2002)。経済企画庁(現内閣府)が1996年に行った調査では、「育児の自信がなくなる」「自分のやりたいことができなくてあせる」「なんとなくイライラする」といった項目で、家事専門の母親の方が、就業している母親よりも「ある」と回答する割合が高く、子育て中に感じる不安が大きいことが示されている。また、同じ有職者でも、常勤の母親に比べ、パートタイムの母親の方で育児不安が

高いことが示されている(谷口、1997)。現在、幼稚園に子どもを通わせている母親で、常勤の職に就くものは少なく、多くが家事専門、有職の者でも労働時間の短いパートタイムである。一方、保育所では、常勤あるいはパートタイムで長時間働きに出るために子どもを預ける母親が利用者の多くを占める(ポピンズコーポレーション「子育て支援方策に関する調査報告書」、2001)ことを考えると、保育所の保護者よりも、幼稚園の保護者の方に、育児不安が高い者が多く含まれていると考えられよう。また、近年、幼稚園は「子育ての支援のために地域の人々に施設や機能を開放して、幼児教育に関する相談に応じるなど、地域の幼児教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること」が奨励され(幼稚園教育要領、平成13年施行)、自宅にこもりきりになりがちな、未就園児の保護者が子どもと参加できる、地域開放を実施する園が増えている。本研究では、こうした幼稚園の地域開放に参加している未就園児の保護者を含めて、幼稚園に子どもを通わせている保護者の子育て支援ニーズを探り、地域における子育て支援において幼稚園が果たすべき役割を見出すことを目的に調査を行った¹⁾。

* お茶の水女子大学人間文化研究科 ** お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター

1 本調査は、東京都公立幼稚園長会との共同研究であり、本稿は同会の許可を得て、データを再分析して発表するものである。

方法

調査対象

東京都の公立幼稚園に子どもを通わせる保護者3119名。それら幼稚園で、未就園児とその保護者を対象とする地域開放活動に参加している保護者564名。

調査方法

子育ての悩みや相談相手、子育て仲間など、子育ての現状と、子育て支援に関して幼稚園や地域に期待することなどを尋ねる質問紙を用いたアンケート調査。

調査時期

平成14年11月から12月。

結果

我が国では、平成15年に「次世代育成支援対策推進法」「少子化社会対策基本法」が交付、施行され、「子どもを安心して生み、育てることができる環境を整備し、「子どもを生み、育てる者が真に誇りと喜びを感じることのできる社会を実現」していくことが、国家的な課題として掲げられている。親の子育てを社会で支援するという理念に基づいて、現在、地域ぐるみで子育てを支援する体制作りが進められている。こうした流れの中、幼稚園は、その地域子育て支援ネットワークの中心として機能することが期待されている。また、自宅にいながらにして、様々な情報を入手することが可能なインターネットは、年々利用者が増加しており、平成15年には世帯利用率が88.1%にまで達した（総務省情報通信政策局「平成15年 通信利用動向調査」）。この先、家庭教育の有効なツールとしての役割が期待される。幼稚園保護者の子育て支援ニーズを探るため、まず、彼らが、幼稚園、地域、インターネットに何を期待しているのかを見た。

1 幼稚園・地域・インターネットへの期待

(1) 幼稚園に期待すること

「安心して子育てをするためには、幼稚園にどのようなことを期待しますか」という問いに対して、期待するものに○を、また特に重要だと思うものには◎をつける形で回答してもらった。◎を2点、○を1点として合計、平均値を計算したところ、得点が高かったのは「子どもの仲間づくりの場（園庭開放・遊び場開放・未就園児の会等）」（平均値1.26）、「子育てに関する相談」（平均値0.56）、「親の仲間づくりの場」（平均値0.49）

であった。二位と三位は一位と大きく差がある。保護者が幼稚園になによりも期待することは、子どもの仲間づくりの場としての役割であると考えられよう。

(2) 地域に期待すること

同様に地域には何を期待するのかを尋ねた。得点が高かったのは、「親の仲間づくりの場」（平均値0.76）、「親が学べる内容」（平均値0.70）、「保護者自身の将来の仕事や活動に通じる勉強の機会」（平均値0.68）であった。地域は幼稚園と同様に、親子の仲間づくりの場としての期待があるのと同時に、親自身の学習に関する期待が、幼稚園より高くもたれている。さらに、母親の就業状況別に見てみると、これら三つの地域への期待いずれについても、最も得点が高いのが家事専業の母親で、最も低いのが常勤の母親であった（表1）。家事専業の母親は、常勤の母親よりも、地域に対して期待をより強く持っていること、またその地域への期待の中身は、子育てに直接関係することにとどまらず、広く、自分自身の生き方をよりよくするようなサポートであることがわかった。

表1 地域への期待 母親の就業状況別

| | 平均値（標準偏差） | | |
|------|-----------|----------|-------------------------|
| | 親の仲間づくりの場 | 親が学べる内容 | 保護者自身の将来の仕事や活動に通じる勉強の機会 |
| 家事専業 | .79(.68) | .72(.69) | .70(.69) |
| パート | .72(.71) | .67(.70) | .67(.74) |
| 常勤 | .44(.56) | .42(.55) | .42(.60) |
| 自営 | .78(.71) | .60(.65) | .59(.69) |

(3) インターネットに期待すること

同様に、インターネットに何を期待するのかを尋ねた。得点が高かったのは、「発達や病気に関する情報」（平均値0.67）、「保護者自身の将来の仕事に通じる勉強」（平均値0.43）であり、自宅にいながら、様々な情報を集めることができるインターネットは、やはり情報源としての役割を最も期待されていること、さらに、将来の仕事に備えた親の学習ツールとしての期待が持たれていることがわかった。

次に、現在幼稚園に子どもを通わせている保護者の、子育てについての考え方、悩み、相談相手、子育て仲間との付き合いといった、子育ての現状、そして、母親の就業状況という子育ての背景事情から、さらに子育て支援ニーズを探った。

2 現代の子育て—子育ての悩み、相談相手

(1) 子どもを育てる上で大事にしていること

「お子さんを育てる上で何をもっとも大事にしていますか」という問いに対する回答を示したのが、Figure 1である。最も多く選択されていたのが「他人に思いやりをもち、やさしい子どもを育てること」(全体の63.2%)であり、次に「健康で丈夫な子どもを育てること」(52.9%)となっている。これらの選択数には、子どもの年齢によって違いが見られ (Figure 2)、「健康で丈夫な子どもを育てること」は、未就園児を持つ保護者でもっとも多く(60.7%)、3歳、4歳、5歳児の保護者では年齢が上がるにつれ選択数が減少していた。「思いやりをもち、やさしい子どもを育てること」は、3歳児の保護者でもっとも多かった。

3歳は、幼稚園に入園し、同年代の子どもたちとの仲間関係を作り始める年齢であるため、人間的なやさしさをもち、他者とうまく関係を結べるようになってほしいという保護者の願いが表れているものと思われる。「生活していく上でのきまりを守ること」「自分で考え行動する自立心を育てること」といった自律、自立心に関わる項目は、子どもの年齢が上がるにつれ、増加する傾向にあった。子どもを育て始めたとき、何よりも保護者が望むのは、健康で丈夫に育っていくこ

Figure 1 子どもを育てる上で大事にしていること

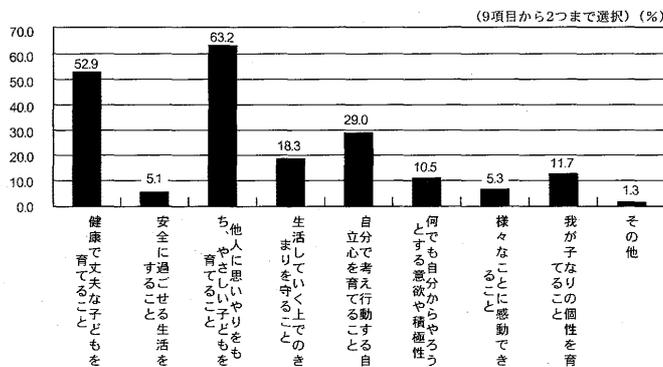
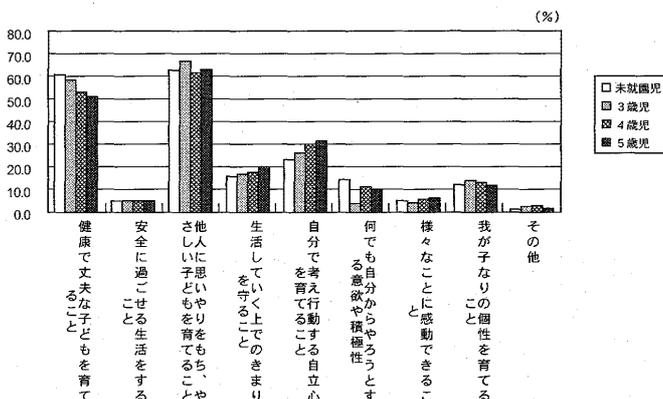


Figure 2 子どもを育てる上で大事にしていること (子どもの年齢別)



とであるが、子どもが大きくなるにつれて、こういう人間であってほしい、と願う気持ちの方が、強く現れてくる様子が窺える。子どもの年齢に応じて、保護者の願う、「育てて欲しい子ども像」は変化していくものと考えられる。

(2) 子育てに喜びを感じる時

「子育てに喜びを感じますか。それはどんなときですか」との問いに対し、最も選択数が多かった答えは「子どもの成長を感じられたとき」(64.0%)、「子どもの笑顔を見たとき」(54.2%)、「元気に遊んでいる子どもの姿を見たとき」(40.5%)となっており、全て子どもが生き生きと生活し、成長する姿を見たとき、感じたとき、となっている。他方、「子どもが他の人に褒められたとき」「子どもがやさしくしてくれたとき」といった、外部的な基準、受動的なものの選択数は少ない (それぞれ4.9%、19.0%)。保護者は、健全に育つ子どもの姿そのものに喜びを感じていることが分かる。

(3) 子育て満足度

保護者たちは、自分の子育てに、どのくらい満足しているのだろうか。「自分の子育てに満足していますか」と質問したところ、「満足している」「ほぼ満足し

Figure 3 子育てに対する満足度

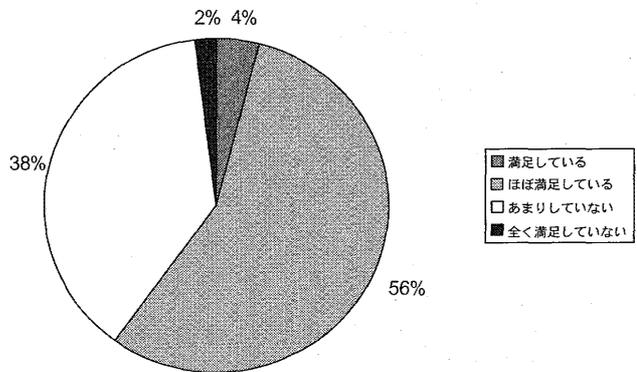
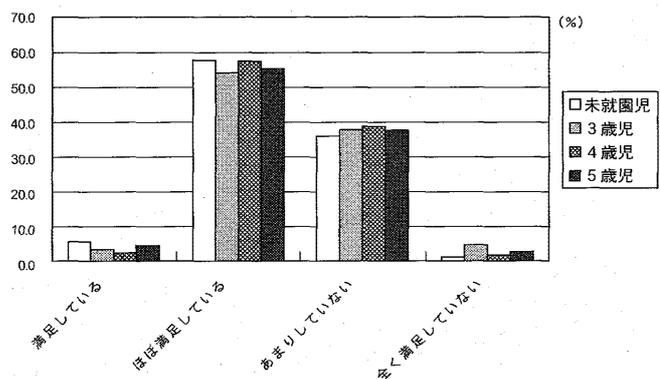


Figure 4 子育てに対する満足度 (子どもの年齢別)



ている」の「満足」回答は、全体の59.9%、「あまりしていない」「全く満足していない」の「不満足」回答は、40.0%であった(Figure 3)。やや満足回答の方が多いものの、現在子育てに満足できていない保護者も4割という少なくない割合で存在していることが示された。さらに子どもの年齢別に見てみると、「満足」回答は、未就園児保護者の方が幼稚園保護者よりも多くなっていた。幼稚園に入園してからの方が、自宅保育の期間よりも、子育ての満足度は下がることが示された(Figure 4)。

(4) 幼稚園に通わせている子どものことで心配なこと

「幼稚園に通っているお子さんのことで、何か心配なことはありますか」との問いに対して、「ある」と答えたのは、全体の約4割(39.7%)であった。子どもの年齢別に見てみると、3歳児の保護者がもっとも多く(50.0%)、次に4歳児保護者(42.6%)、5歳児保護者(37.1%)と、子どもの年齢が上がるにつれ、割合は少なくなっていた。さらに、その心配事の内容は何かを尋ねたところ(Figure 5)、全体では、「食が細い、好き嫌が多い」が最も多く(21.5%)、続いて「わがままを言ったり反抗したりする」(19.4%)となっていた。子どもの年齢別に見てみると、3歳児の保護者で選択数が最も多かったのが「わがままを言ったり反抗したりする」(26.5%)、4歳児、5歳児保護者では「食が細い、好き嫌が多い」(4歳児：22.0%、5歳児：21.9%)と、心配事の内容も、子どもの年齢によって異なってくることを示された。3歳というのは、いわゆる第一次反抗期にあたり、子どもの自我が育ち始め、親とのぶつかり合いも増える時期である。この時期に表れる自己主張の激しさは、発達上重要な変化であるのだが、保護者の目には、以前にはなかったわがままや反抗と映り、大きな心配事となっている可能性が考えられる。また3歳児の保護者では、「言葉使いが悪い」という回答も他の年齢群より多くなっているが、これは子どもの語彙の増大時期と、上記の反抗期が重なって生じている現象だと考えられよう。このように、子どもが3歳の頃というのは、保護者が子どもの発達の变化にとまどい、問題を感じやすい時期だといえるが、上記の結果からは、そうした心配も、子どもが4歳、5歳と大きくなっていくにつれ、徐々に減少し、心配事の内容も、子どものわがままや反抗に関することから、食に関する問題に移っていくことが分かる。

(5) 子育てを辛いと感じるとき

保護者は、どんなときに子育てを辛いと感じるのだ

Figure 5 子どものことで心配なこと

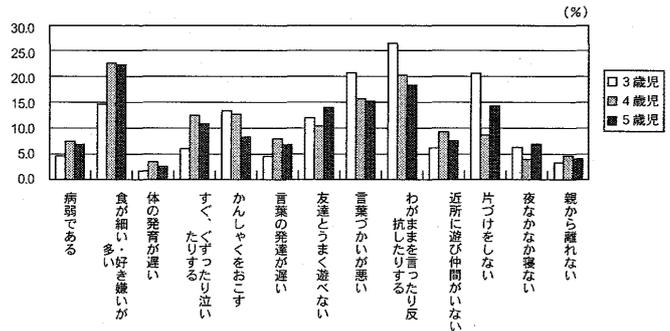


Figure 6 子育てを辛いと感じること

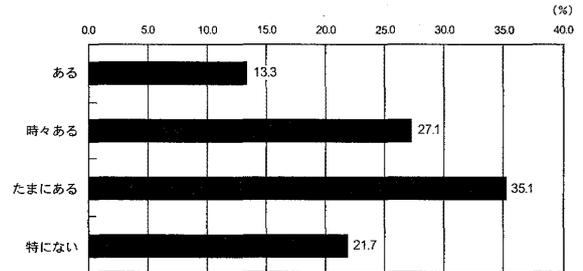
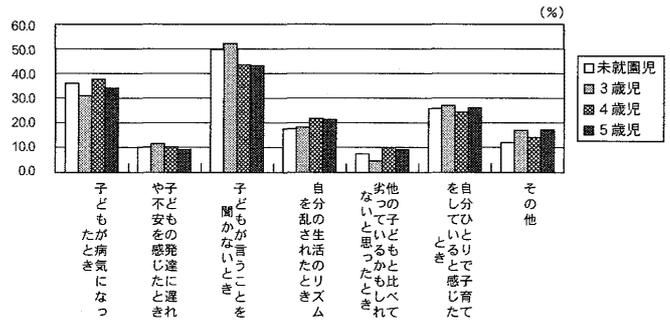


Figure 7 子育てで辛いこと (子どもの年齢別)



ろうか。「子育てを辛いと感じることはありますか」という問いに対する回答は、多い順に、「たまにある」(35.1%)、「時々ある」(27.1%)、「特にない」(21.7%)、「ある」(13.3%)となっている(Figure 6)。頻度に差こそあれ、「ある」との回答が、全体のほぼ8割を占めており、みな、子育てを辛いと感じる経験をしていることがわかる。それでは、どんなときに子育てを辛いと感じるのだろうか。「子育てを辛いと感じるのは、どんなときですか」と質問したところ、多かった回答は「子どもが言うことを聞かないとき」(44.7%)、「子どもが病気になったとき」(35.5%)、「自分ひとりで子育てしていると感じたとき」(25.4%)、「自分の生活のリズムを崩されたとき」(20.3%)であった。このうち最も多かった「子どもが言うことを聞かないとき」は3歳児保護者で最も多く(52.2%)、4歳児5歳児保護者では3歳児より減少している(4、5歳児とも43.2%) (Figure 7)。この結果は、前述した3歳児の発達の特徴に対する保護者の心配が、「辛い」とまで感じられる体験になってしまっている可能性をうかがわ

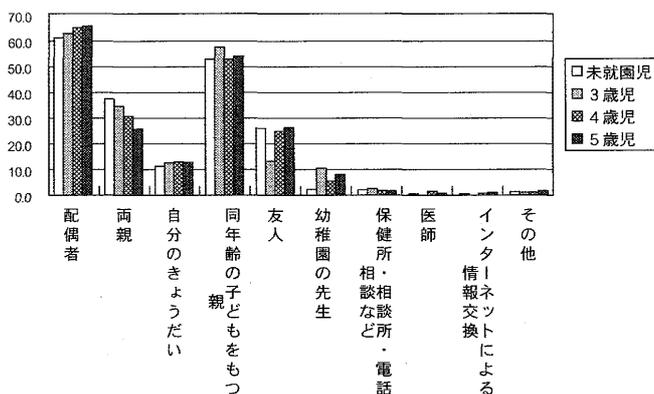
せる。

(6) 子育ての相談相手

前述の結果から、子どもを育てている保護者の中には、なんらかの心配事を抱え、子育てに辛さを感じている人が、少なくないことがわかった。子育てをめぐる様々な問題に直面する保護者にとって、相談相手がいることが、心の安定、安心に非常に重要であることは、想像に難くない。では実際、どのくらいの人々が相談相手を持ち、また、どんな人に相談をしているのだろうか。「子育てについて気軽に相談できる相手はいますか」との問いに対して、「いる」と回答したのは、全体の97.5%にのぼり、ほとんどの保護者が、誰かしら相談できる相手を持っていることが分かった。次に、「それは誰ですか」と質問したところ、最も多かった回答は「配偶者」であり(65.1%)、続いて「同年齢の子どもを持つ親」(53.7%)であった。やはり、最も身近な存在であり、共に子どもを育てていくパートナーである配偶者は、一番の相談相手なのだろう。また、幼稚園等で知り合う同年齢の子どもを持つ親たちは、抱える悩みの内容も近く、気持ちを共有し合える相手であり、お互いに相談しあう関係ができていくものと考えられる。配偶者の選択数について、子どもの年齢別に見てみると、未就園児保護者、3歳児保護者、4歳児保護者、5歳児保護者の順に、増加していた(それぞれ、61.7%、63.2%、65.5%、66.0%)。一方で、相談相手として「両親」を選択した割合は、未就園児、3歳児、4歳児、5歳児の順に減少していた(それぞれ、37.2%、34.6%、30.6%、25.6%)。これらの結果から、子どもの年齢が高くなるにつれ、子育ての相談相手として、肉親の中でも配偶者の重要性が増してることが窺える。

他方、「幼稚園の先生」「保健所・相談所・電話相談

Figure 8 子育ての相談相手 (子どもの年齢別) (%)



など」「医師」といった専門家については、総じて選択数が低く(それぞれ6.4%、1.5%、0.7%)、専門的な知識、技術へのアクセスは、保護者にとって気軽なものではないことが示唆された (Figure 8)。

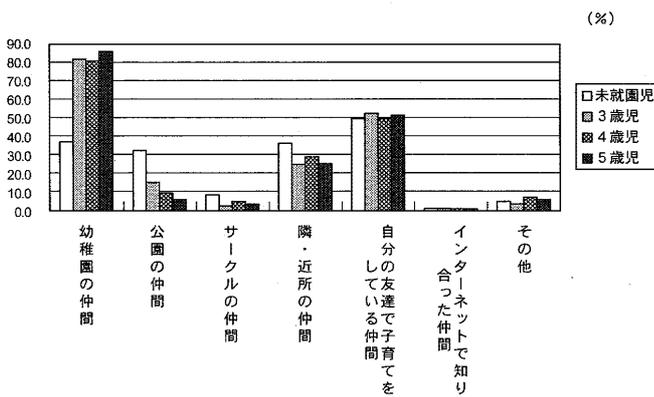
(7) 相談相手がいない人

「子育てについて気軽に相談できる相手はいますか」という問いに対して、「いない」との回答は全体の2.5%であり、全体的に見て決して多くはない。しかし、日々出会う子育ての疑問や悩み事について話せる相手がおらず、問題解決ができないままでは、養育者の精神的健康に深刻な結果を及ぼす可能性が高いとも考えられ、現代の子育てにまつわる問題に関連して、見逃せないポイントである。相談相手がいない、と回答した者に、子育ての悩みをどうやって解決しているかを尋ねたところ、「自分で考えたり調べたりする」という回答が、全体の52.4%であり、半数の人は、自分で積極的に解決を目指して努力していることがわかった。一方、「悩まないようにしている」「自然に解決するのを待つ」といった消極的対応も、14.6% (「悩まないようにしている」)、22.0% (「自然に解決するのを待つ」) 見られた。ただし「あきらめている」という、完全に消極的な回答は0%であった。これらの結果から、消極的とはいえ、はじめからあきらめてしまうのではなく、皆自分なりになんらかの対処法を持っているものと解釈できよう。だが、「解決できないでいる」という、問題を抱えたままであることを示す回答も14.6%見られ、懸念される。さらに、上記の相談相手がいない人の「自分の子育てに満足していますか」という質問への回答を見てみると、「満足している」「ほぼ満足している」を合わせた「満足」回答は、「自分で考えたり調べたりする」と回答した群でもっとも高かった(58.9%)。解決法として二番目に回答の多かった「自然に解決するのを待つ」群では、「満足」回答は23.4%で、「悩まないようにしている」群では50.0%であった。これらのことから、消極的対処法でも、悩まないようにする、というのは必ずしもネガティブな方法ではないことが推察される。だが、「解決できないでいる」群の「満足」回答は、16.7%と最も低く、身近な相談相手がおらず、子育ての問題が解決できないでいることが、子育て満足度を下げている可能性が考えられる。

3 子育て仲間

喜びだけでなく、時には辛さも伴う子育てには、精神的に支えてくれる仲間の存在が、非常に大きな意

Figure 9 同年齢の子育て仲間



味を持つであろう。どのような相手が子育て仲間となり、どのような仲間づきあいが生まれているのだろうか。

(1) 同年齢の子育て仲間

前述の質問で、気軽に相談できる相手として、配偶者に続いて、「同年齢の子どもを持つ親」が多く選択されていた。こうした、自分と近い年齢で、子育てをしている仲間とは、どのような場所で知り合うのだろうか。「同じくらいの年齢の方で、気軽に話せる子育ての仲間がいますか」という問いに対して、「いる」と答えた人は、全体の92.4%であり、その相手で多く選択されていたのは、「幼稚園の仲間」(76.2%)、「自分の友だちで子育てをしている仲間」(50.0%)、「隣・近所の仲間」(27.9%)であった。子どもの年齢別に見てみると、「幼稚園の仲間」は3、4、5歳児全てで80%を越えている。幼稚園に子どもを通わせていると、保護者同士が顔を合わせる機会も多く、その中で子育て仲間が形成されやすいのであろう。一方、普段自宅で保育をしている未就園児保護者においても、幼稚園児保護者より割合は下がるが、37.5%と、低くない数字となっている (Figure 9)。本調査では、未就園児保護者は、幼稚園の地域開放を利用している者が対象となっており、幼稚園が、自宅で子育てをしている保護者たちにとって、子育ての仲間作りの場として機能していることが窺える。また、未就園児保護者においては、「隣・近所の仲間」そして「公園の仲間」の選択数が、幼稚園児保護者よりも高くなっており、地域のつながりもまた、自宅で子育てをしている保護者にとって子育てを支える大切な仲間関係作りの場となっていると考えられよう。

(2) 子育て仲間との関係

こうした同年齢の親同士の仲間づきあいは、保護者にとってどのようなものとなっているのだろうか。仲間と付き合う上でのよい点と悪い点について尋ねた。

「仲間と付き合うことでよいことはありますか」という問いに対し、選択数が多かったのは「ストレスが発散できる」(35.5%)、「同じ悩みがあることがわかって共感できる」(30.3%)、「子育ての情報が得られる」

(28.2%)、「子育てで困っていることの解決策がわかる」(24.1%)、「子どもに遊び仲間ができる」(22.9%)であり、上位4位までが保護者自身にとってよいことで、特にストレス解消や悩みの解決など、精神的なメリットが大きいことが分かった。次に、前述した子育て仲間の違いによって、これらの良い点は異なるのかどうかを見てみると、「ストレスが発散できる」は「公園の仲間」を選択した群で最も多く(39.5%)、次に「幼稚園の仲間」(35.5%)、「自分の友だちで子育てをしている仲間」(33.8%)、「インターネットで知り合った仲間」(33.3%)となっていた。また「同じ悩みがあることがわかって共感できる」は、「幼稚園の仲間」を選択した群で最も多く(30.3%)、次に「自分の友だちで子育てをしている仲間」(29.9%)となっていた。「子育ての情報が得られる」は、「幼稚園の仲間」群と「サークルの仲間」群で最も多くなっていた(ともに30.1%)。このように、ストレス発散は公園の仲間、子育ての悩みについては幼稚園の仲間、子育ての情報源としては幼稚園とサークルの仲間、というように、それぞれの仲間によって、主に得られるサポートは異なっていることが分かる。各仲間は、それぞれ違った面から保護者たちの育児を支える、サポート資源となっている様子がうかがえる。

次に、「仲間と付き合うことで困ることはありますか」という問いに対する回答を見てみると、最も選択数が多かった回答は「価値観の違う人とどう付き合うか悩む」(32.7%)で、次に、回答数は減るが、「子ども同士のトラブルできまづくなる」(11.8%)、「他の子や親が素晴らしく見えて、自身がなくなる」(11.5%)と続いている。さらに、仲間の種類別に見てみると、「価値観の違う人とどう付き合うか悩む」がどの仲間の場合でも、困ることの中でもっとも多く選択されており(幼稚園の仲間:37.0%、公園の仲間:38.2%、サークルの仲間:37.7%、自分の友達で子育てをしている仲間:35.8%、インターネットで知り合った仲間:38.1%)、一番の悩みとなっていることがわかった。

全体的に見ると、仲間と付き合い上でよいことの方が、困ることの回答数より多く、仲間づきあいにはデメリットもあるが、メリットの方がより強く認識されていると考えられよう。

(3) 子育て仲間がいない理由

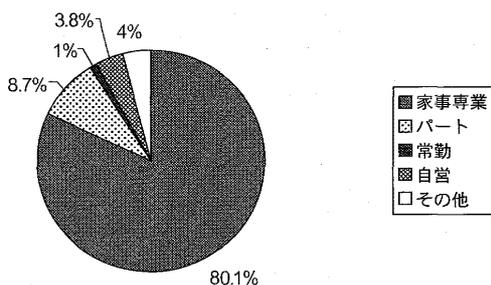
前述の結果から、同年代の子育て仲間は、保護者に精神的なサポートを与える資源であることが示唆されたが、こういった子育て仲間を持たない人たちも、全体の5.3%存在していた。この人たちに、なぜ仲間がいないのかを尋ねたところ、仲間は持ちたいのだが持てない理由として、「近くに仲間作りをする場や人がいない」(25.1%)、「仲間に入るきっかけが作れない」(20.5%)が多く選択された。また、「特に必要ない」と仲間を持つ必要性を認めない回答は、21.6%見られた。子どもの年齢別に見ると「近くに仲間作りをする場や人がいない」と答えた人は、未就園児を持つ保護者でもっとも多く(51.7%)、3歳児や4歳児では非常に少ない(3歳児:0%、4歳児:9.3%)。これらの未就園児を持つ保護者にとっては、幼稚園は仲間づくりの場として機能していないことが考えられる。「仲間に入るきっかけが作れない」人もいて、他者との関係づくりのスキルが不足している保護者の存在を窺わせる。また、特に仲間を持つ必要を感じない人も、少数ではあるが存在していることが分かった。

さらに、それぞれの回答を選択した人の、子育て満足度を見てみると、「近くに仲間作りをする場や人がいない」では、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた「満足」回答は40.5%、「仲間に入るきっかけが作れない」では43.1%、「特に必要ない」では33.3%と、むしろ仲間を必要としない人の方が、子育て満足度は低いことが分かった。

4 母親の人生と子育て

女性の社会参加が進み、働きながらの子育てを希望する人の数も増加しているが、残念ながら現代の社会

Figure 10 母親の就業状況



状況は、仕事と子育ての両立を容易に行えるまでには至っていない。また、家事に専業している女性たちにとっても、子育てをめぐる事情は決して恵まれたものとはなっていない。夫から育児の協力が得られず、同居の両親もいない核家族の中、一人で子育てを背負っている母親の数は決して少なくないのである。こうした母親たちの、子育てに対する満足度、そして自分の生き方に対する満足度を見てみた。

(1) 母親の就業状況

母親の就業状況を見てみたところ、Figure 10のような内訳であり、多い順に「家事専業」(80.1%)、「パート」(8.7%)、「自営」(3.8%)、「常勤」(1.0%)であった。

(2) 母親の就業状況と子育て満足度

母親の就業状況により、子育てに対する満足度は異なるのかどうかを見た。その結果、「満足している」と「ほぼ満足している」の「満足」回答が最も多かったのは、「常勤」の母親であり(60.0%)、続いて「家事専業」(59.6%)、「パート」(58.2%)、「自営」(55.9%)となっていた(Figure 11)。

(3) 母親の就業状況と子育てに感じる辛さ

母親の就業状況により、子育てをしていて辛いと感じる経験は違うのかどうかを見た。まず、「子育てを辛

Figure 11 母親の就業状況と子育て満足度

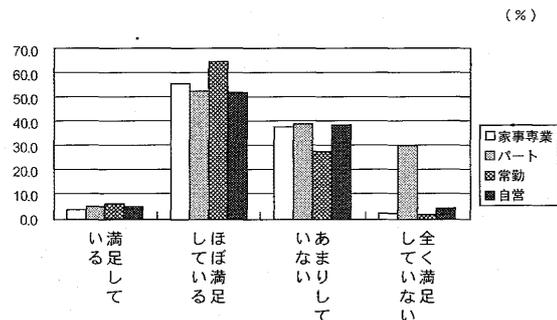
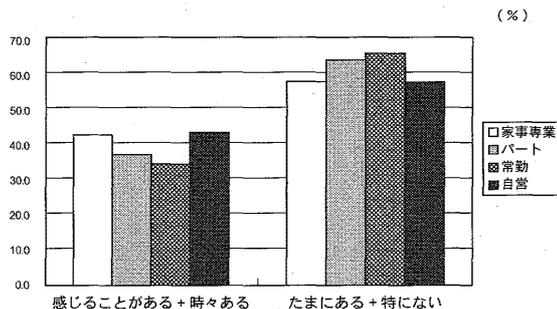


Figure 12 母親の就業状況と子育てに感じる辛さ



いと感じる場合がありますか」という問いに対する回答を、就業状況別に見てみると、「感じることもある」と「時々ある」を合わせた「辛いと感じる」回答は、「家事専業」と「自営」で多かった(家事専業：42.5%、自営43.0%) (Figure 12)。次に、辛いと感じる内容で、最も選択数が多かったものを見てみると、「家事専業」「パート」「自営」の母親では「子どもが言うことを聞かないとき」(家事専業：45.2%、パート41.2%、自営：44.6%)、「常勤」「自営」の母親では「子どもが病気になったとき」(常勤：52.0%、自営：44.6%)であった。二番目に選択数が多かったものを見てみると、「家事専業」「パート」の母親は「常勤」で最も多かった「子どもが病気になったとき」であったが(家事専業：34.8%、パート：39.8%)、「常勤」の母親では「自分の生活リズムを乱されたとき」(28.0%)となっており、「常勤」の母親は、他の就業状況の母親と比較して、自分の仕事に影響が出る場合に、辛いと感じる傾向があるものと考えられる (Figure 13)。

(4) 母親の就業状況と生き方への満足度

母親たちは、今の自分の生き方にどのくらい満足しているのだろうか。「あなた自身は現在の自分の生き方

Figure 13 母親の就業状況と子育てを辛いと感じるとき

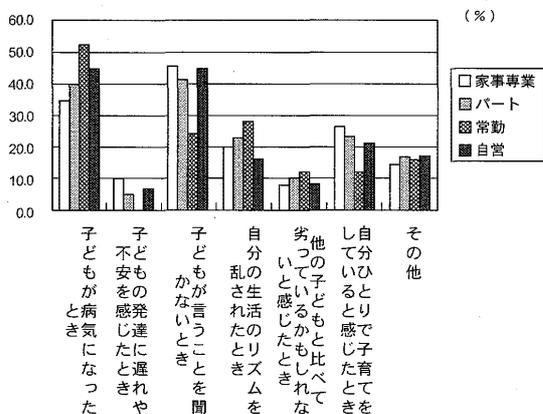
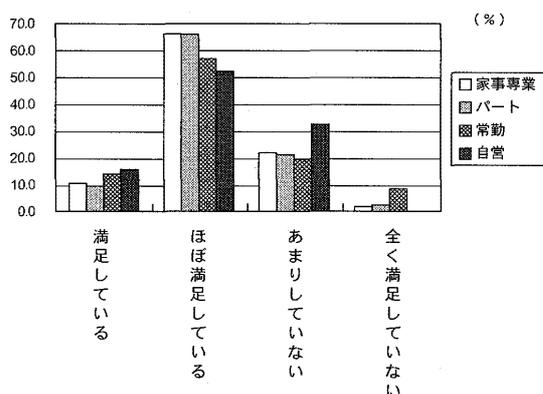


Figure 14 母親の就業状況と生き方への満足度

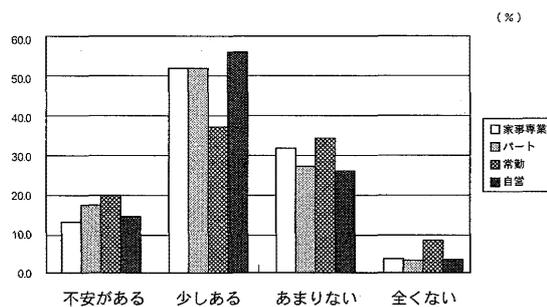


に満足していますか」という問いに対して、「満足している」と回答したのは全体の10.9%、「ほぼ満足している」は64.9%、「あまりしていない」は22.4%、「全く満足していない」は1.7%であった。全体的に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた「満足」回答の方が、「あまりしていない」「全く満足していない」を合わせた「不満足」回答よりも多くなっている。次に、母親の就業状況によって、自分の生き方への満足度は異なるのかどうかを見てみた。その結果、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた「満足」回答は、「パート」の母親で最も高く(76.0%)、以下高い順に「常勤」(71.4%)「自営」(67.7%)「家事専業」(66.7%)となっていた。この順位は、前に見た子育て満足度とは異なっている。生き方に関して最も満足度が高かったのは「パート」の母親であったが、「パート」の母親の子育て満足度は、「常勤」「家事専業」に続いて3番目である。また、子育てで二番目に満足度が高い「家事専業」の母親は、生き方に関しては4群中最も満足度が低くなっている (Figure 14)。

(5) 母親の就業形態と、将来への不安

母親たちに、自分の将来について不安を感じているのかどうか尋ねた。「あなたは、将来の自分の生活に不安をもつことがありますか」との問いに対する回答を見てみると、「不安がある」と回答したのは全体の13.6%、「少しある」は52.1%、「あまりない」は30.8%、「全くない」は3.5%であり、「不安がある」と「少しある」を合わせた、少しでも「不安がある」群が、全体の65.7%を占めていることがわかった。次に、母親の就業形態別に見てみると、「不安がある」群の占める割合が最も高かったのは、「自営」の母親で70.2%、続いて「パート」(69.4%)「家事専業」(64.9%)となっており、最も低かったのは「常勤」で57.1%であった (Figure 15)。

Figure 15 母親の就業状況と将来への不安



考 察

～子育て支援ニーズ 応えるサポート資源～

以上の分析結果からは、子どもの成長する姿そのものに喜びを感じつつ、子どもが自分の思うようにはならない難しさや、その難しい子育てを一人で背負っているという孤立感に悩みながら、日々の子育てに向かっている保護者たちの姿が浮かびあがってくる。こうした保護者たちに対して、地域、幼稚園はどのような支援を提供していくことが必要であろうか。以下に考察していく。

1 子育ての悩みに対して—子育て相談と情報発信

子育てに悩みはつきものではあるが、3歳児の保護者が訴える「子どものわがままや反抗」そして「子どもがいうことを聞かない」辛さなどのように、発達の専門的知識を持つ者が保護者の相談にのり、適切な知識を伝えることで、ある程度軽減できるものもある。幼稚園は、保護者にとって最も身近な専門家として、子育ての相談相手となること、そして、こうした専門的知識の発信により力を入れていくことが必要であろう。また、「幼稚園に期待すること」への回答からは、保護者もそれを期待していることが示されている。だが実際には、幼稚園や医師(病院)、保健所、相談所など、専門的知識や専門的援助技術を持つ地域の施設・機関は、子育ての相談相手としては、機能していない事実が示された。こうした地域の資源を保護者が活用できる状況を作るためには、専門機関が、保護者にとってもっと身近なものとして認識される必要がある。そのため、知識や技術、サポートの入手方法などについて、地域の保護者へ専門機関が積極的に情報を発信し、また保護者の情報入手を容易にする配慮、工夫をしていくことが肝要だろう。

また、子育ての悩みを相談する相手として、配偶者の重要性は、子どもの成長につれて増していくことが示された。本調査の回答者のほとんどを占める母親たちにとって、父親は一番の相談相手なのであり、父親がより積極的に子育てに関与していくことは、母親の育児負担を軽減する鍵となろう。幼稚園は、父親の育児参加を進め、父親の子ども理解、育児理解を促進することを目的として、家庭に働きかけをしていく必要がある。

2 子育て仲間作りの場として

保護者の9割以上が子育て仲間をもち、その多くの

保護者にとって、幼稚園が仲間作りの場となっていることが示された。幼稚園は、子どもや親の仲間作りの場となるよう期待が持たれていることが示されたが、実際に、その機能を果たしているといえよう。保護者は、「ストレスが発散できる」「同じ悩みがあることがわかり共感できる」「子育てで困っていることの解決策がわかる」と、子育て仲間と付き合うプラス面を認識しており、子育てに悩みつつ、日々奮闘している者として、同じ立場で相談し合える仲間の存在は、保護者にとって重要な精神的支えであることがわかった。だが、身近に子育て仲間がいない保護者は、悩み事や問題を誰にも相談できず、解決できないまま抱えこむ辛さを味わい、強いストレスを感じているものと考えられる。実際、彼らの子育てに対する満足感は非常に低かった。幼稚園は、こうした保護者の存在を認識し、積極的に働きかけていく必要があるだろう。仲間がいない理由としては、身近に仲間作りの場や人がいないという回答以外にも、「仲間に入るきっかけが作れない」という、対人的スキルの問題をうかがわせるものがあった。また仲間がいる場合でも、「子ども同士のトラブルで気まづくなる」「他の子や親が素晴らしく思えて自信がなくなる」など、付き合い方に悩んでいることを示す回答が見られた。今後は、こうした親自身の対人的問題についての心理的サポートも、仲間作りの場である幼稚園に求められてくるだろう。

3 母親の生き方と子育ての支援

家事専業で、子育てに専念している母親たちは、子育てには満足しながらも、自分の生き方には満足しきれない心を抱えていることが示された。また、今回の調査では、地域とインターネットに対して、「親が学べる内容」や「保護者自身の将来の仕事に通じる勉強」への期待が持たれていることが示された。こういった背景には、女性のライフスタイルが多様化し、女性にも社会で活躍できる多くの可能性が開かれたことがある。結婚したら家庭に入り、子どもを生き育てる、という生き方は、たくさんある選択肢の一つとなった。子育てだけが女性の生き甲斐ではない、という認識が一般化してきた結果、女性たちは子育てをしつつも、それだけでは自己実現に十分ではない、と、子育て以外の何かを求めているように思われる。家事専業の母親が、子育て以外に自己実現を可能とするものを持つことができれば、生き方への満足度は高くなるだろう。それは、間接的な子育てのサポートといえる。また、将来への不安を持っている母親が、全体の6.5割を占め

ていたことから、今はしていないが将来的には仕事をしたい、という希望の背景には、自己実現以外に、経済的な事情や不安があるものと推測される。地域とインターネットには、親が学べる場、機会を提供することで、情報源という直接的な子育てサポート資源としてだけでなく、母親の生き方への満足感を高める、という形での間接的なサポート資源となることが期待される。なお、パートの母親は、自分の生き方への満足度は高いのに対して、子育て満足度が低いという特徴があった。今回の調査からは、なぜこういった傾向が現れたのかは定かではないが、同じ幼稚園の家事専門の母親たちに比べ、子育てに十分な時間をかけられていない、との思いがあるのかもしれない。幼稚園側は、こうした母親たちの悩みや不安の内容を知る努力をし、子育てに喜びを感じていけるよう、サポートしていく必要がある。

4 総括—これからの子育て支援に向けて

幼稚園に子どもを通わせている保護者の育児支援ニーズと、幼稚園が地域の子育て支援において果たすべき役割ついて考察してきた。今、地域全体に求められるのは、保護者が気軽に専門機関、施設に相談できる体制づくり、そして、母親のよりよい生き方全般を、サポートしていく体制作りである。幼稚園には、地域子育て支援のセンター的存在となることが期待されているが、現在のところ、そうした地域での支援の枠組みそのものが、まだ形成過程にある。幼稚園は、日常的に、直接保護者と接するという特徴を生かして、個々の保護者に最適な支援を提供していく努力が求められるほか、地域ぐるみの子育て支援のあり方、その中で幼稚園の位置づけについて、これからの幼稚園のあり方、存在意義と結びつけて、考えていくことが求められよう。

参考文献

- 株式会社ポピンズコーポレーション. (2001). 「子育て支援方策に関する調査研究」. 報告書.
- 経済企画庁国民生活局. (1996). 「平成9年度国民生活選好度調査」. 大蔵省印刷局.
- 谷口利加子. (1997). 就労女性と育児不安—職業生活関連要因からの検討—. *生活社会科学研究*, 4, 17-29.
- 牧野カツコ. (1983). 働く母親と育児不安. *家庭教育研究所紀要*, 4, 67-77.

文部科学省. フレーベル館/編. (1999). 幼稚園教育要領〈平成10年告示〉.

八重樫牧子・小河孝則. (2002). 母親子育て不安と母親の就労形態との関連性に関する研究. *川崎医療福祉学会誌*, Vol.2, 219-239.